

平成30年

1月の重要農作業

四国中央市農業振興センター

《問い合わせ先》

四国中央農業指導班

(果樹) 東予地方局産業振興課産地育成室

(畜産) 東予家畜保健衛生所

TEL 23-2394

TEL (0898) 68-7322(代)

TEL (0897) 57-9122

【天気予報】

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、平年並または少ない確率とともに40%です。

	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)
2015年	6.0	9.4	2.8	77.5
2016年	6.2	9.8	2.9	70.5
2017年	6.0	9.7	2.7	52.0
1981~2010年	5.8	9.2	2.6	42.3

※気温については、1ヶ月の平均値

【作物】

麦(裸麦・小麦)

1 土入れ

土入れは倒伏防止、無効分げつの抑制、根際の乾燥防止、雑草抑制に効果があります。本葉3~4葉期頃から茎立ち期(2月)までの間で、土が乾いている時に3回ほど実施して下さい。

2 麦踏み

麦踏みは根の浮き上がり防止、徒長防止、倒伏防止、根張り促進に効果があります。土入れ作業後に、土が乾いている時に実施して下さい。麦踏みの後に土入れをすると折れた茎葉を覆土し、生育障害を招く恐れがありますので、必ず土入れ作業後に麦踏みを行うようにして下さい。

3 排水対策の徹底

湿害防止のため、排水溝の溝さらえをしっかりと行って排水の促進に努めて下さい。特に、排水溝は必ず圃場の外まで導いて、水が排出されるようにして下さい。

4 中間追肥

ドリル播栽培および全面全層播栽培で生育の悪いときは、分げつと生育促進のため1月下旬までに、生育状況にあわせて窒素成分で1.5~2kg/10aの追肥を行って下さい。

<山橋>

【野菜】

1 さといも

(1) 3年の輪作体系の実施

水稲・やまのいもとの輪作体系により土壌病害やセンチュウ類の密度を抑えて下さい。

(2) 圃場菌密度の低減を図るため発病残さ処理

出荷調整したときに出る芋等残さは、速やかにロータリーで破壊、土中埋没し、圃場に放置しないで下さい。

(3) 野良生え防止

くず芋など圃場周辺に放置しないで下さい。

(4) 石灰窒素の施用

ア 施用効果 ①シアナミド(殺菌成分)による殺菌

②有機物の腐熟促進

③土壌のアルカリ化による発病抑制

イ 施用時期 植付け30日前までに施用

ウ 施用量 40~60kg/10a

(5) 耕耘作業機械等による発病圃場からの土壌の拡散防止

土壌の移動による病害発生圃場の拡大を抑制するため、トラクター等の使用後はこまめに洗浄して下さい。

(6) 深耕及び堆肥の施用

積極的に深耕と完熟堆肥の投入を行って下さい。

2 タマネギ

冬期は、地上部(葉数・葉重)の生育に変化は見られませんが、地下部(根の伸長)は発育しています。根の発達に、追肥は大切な作業となります。時期は、早生系で1月上旬頃、中晩生系では1月中旬頃、NK化成特11号を40kg/10a施用して下さい。

3 ソラマメ

今月は、収量アップ、3粒莢率向上、害虫防除のための管理が必要です。側枝は6~8本を目標に、必要のない枝は順次除去します。また、支柱による誘引作業をすることで、株元に光が入り光合成能力が高まり、莢の肥大促進につながるの、行って下さい。

害虫については、アブラムシによるウイルス病の感染に注意して下さい。

発生を確認した場合は、エルサン乳剤1,000~2,000倍、又はスミチオン乳剤1,000~2,000倍で防除して下さい。

<越智>

【果樹】

1 甘平

甘平の成熟期は2月上旬頃で、糖度が高まり酸が低下した果実の収穫が原則です。収穫が早い場合は、糖度が低く酸高の恐れがありますので注意して下さい。また、果梗部周辺の着色遅延の程度が甚だしい程、糖度が低く食味が劣る傾向がありますので、着色が進んだ果実から収穫するなど分割採取を行います。但し、低温による寒害などが予想される場合は、その前に収穫を行って下さい。

収穫した果実は萎れやすいので、裸果の状態です長時間放置せず、コンテナ内の果実を新聞紙で包み込むなどの対応が必要です。減酸のために貯蔵する場合は、3~4%の減量(予措)後、ポリ個装し、開口部を半折りにして密封しないこと。

2 不知火

不知火は、収穫時期が遅い程、糖度が高まり食味が向上しますが、一方で水腐れなどの果皮障害の発生が増加し、また寒害などの気象災害を受けやすくなります。立地条件を考慮して、果皮障害が多発する前には収穫を開始して下さい(貯蔵による減酸を考慮すると、収穫開始の酸の目安は1.5%以下です)。

収穫した果実は、3~5%減量を目安にゆっくり(3週間程度)予措し、その後の貯蔵は、温度6~8°C、湿度80~90%の条件下で行います。乾燥や過湿による貯蔵障害(コハン症、ヤケ等)の発生を抑制するために、コンテナ内の果実を新聞紙で包み込むか、長期に貯蔵する場合はポリ個装を行うなど貯蔵期間に応じた処理を行って下さい。

3 いよかん

貯蔵は、適正入庫量(0.8~1.0t/坪)を厳守し、貯蔵庫内の空気の循環に配慮して下さい。階級別に区分貯蔵し、ス上がりしやすい大玉果(3L以上)は短期貯蔵とします。貯蔵条件の目安は、短期貯蔵で温度8~9°C・湿度85%、長期貯蔵で温度6~8°C・湿度80~85%です。

<本田>

【花き・花木】

1 シキミ(越冬害虫防除)

マシン油乳剤を規定の希釈倍数(アタックオイル100倍)で散布します。越冬害虫を防除し、発芽期のダニ類の発生を抑えます。

2 ラナンキュラス(球根養成栽培)

元肥(よりりん60kg/10a、苦土石灰100~120kg/10a)の施肥と、畝立て(畝幅120~130cm)を行って下さい。

定植は、株間と条間はそれぞれ10cmで、1株2~3本植え(5~7万本/10a)とし、密植を避けます。

定植30日後(根が活着したころ)、土寄せを行いながら、くみあい化成2号60kg/10a(窒素成分5.4kg/10a)の追肥を行って下さい。

3 アネモネ

追肥は、本葉が2、3枚見えはじめてから行います。くみあい化成2号50kg/10a(窒素成分4.5kg/10a)の追肥を行って下さい。

<日野>

【畜産】

新年を迎え、1年の計画を立てるに当たり、自家配合等で単味飼料を添加できる方は、飼料米の利用を検討してはいかがでしょうか?

酪農・肉牛では配合飼料の5~10%、養豚(肥育豚の仕上げ前2か月間)や採卵鶏では配合に10~20%の添加により低コスト安定経営として好成績を上げている事例があります。

飼料米使用のメリットは、輸入トウモロコシよりも価格が安定しており(一般に乾燥玄米の耕種農家からの買い取り価格約20円/kg前後)、栄養価がほとんど変わらないため、一定割合トウモロコシ等の配合におきかえて混合給与できる点にあります。

現在は国策(経営所得安定対策)として交付金(戦略作物助成で55,000円~105,000円(収量に応じ)/10a)、また、県枠の産地交付金で担い手(認定農業者)の飼料イネ専用品種使用取組で10,000円/10a加算が耕種農家側に出るため、地域の耕種農家と連携して取り組みやすくなっています。

一方、飼料米使用のデメリットは、養鶏以外はもみや玄米のままでは消化吸収が悪いため、ひき割り、粉碎などをする手間や加工処理機械が必要であり、加工処理を業者委託した場合約10円前後/kgかかる点があります。また、玄米等の保管場所も必要です。

<二神>